

賣卜先生安樂傳受 上

9
3898
1

門 口 9
號 3898

此系紙を諸人安楽ぬ世に伝ふるの
心ゆをわたりあうくぬくことせり

をいづくせんせいあんらぐんも

寶下生安樂傳

三冊

書林弘所

循古堂
私章堂
群玉堂

早稲大 27.6.25 入



寶下生安樂傳

此草紙は美濃老若多病盛衰の人の心方

苦痛をたそけあんらく

世とつるものあうくぬくことせり

あうくぬくことせり





賣卜先生安樂傳授上之巻

○賣卜先生一日茶電の外小者板を叩 法人安樂傳授
 所々大寺小書々々。世を以て知る。ある處に親目の
 世の世の常々。我々々々。はひまのそ他授を
 新々中々も先一番のそ。ける子にがし。は我々
 の錫杖ゆり々々。やく先生。笑々も。は我々
 り。は。知の門々々。は。子。がし。ある。世。師。が。つ。る。く
 づ。も。く。く。ま。の。の。か。る。夜。の。は。な。れ。る。板。を

[illegible]

○傳授せんじゆ先生せんせいおうふくつゝ笑わらふく日ひ只ただそふふ

引合ぬる。成やうくむ。あつた。けき。と。も。の。先。ゆが。
 ん。ふ。る。れ。母。の。結。核。を。世。界。と。の。あ。い。の。や。う。み。を。害。そ。
 ま。ゝ。れ。は。ま。ず。は。あ。や。ま。い。な。い。か。ゝ。ん。や。ま。い。

○チヨニガレ坊主^{やうざい}を奪^{うば}つて曰^{いは}我^{われ}もむ通^{とほ}じ世界^{せかい}といふ
 チヨニガレと一^{ひと}分^{ぶん}たるやぶ殊^{こと}の矢^や先^{さき}なるや事^{こと}ぬこ二^{ふた}
 やをまゐるめをわつて鬼^{おに}神^{かみ}のやうな親^{おや}でも海^{うみ}を
 渡^{わた}ぬ。今^{いま}は冷^{ひや}いゆまや。そめくくるまで。色^{いろ}も利^き
 欲^{よく}と徳^{とく}といふものをもてまや親^{おや}を自由^{じゆう}にならう。

我^{われ}あ^らふ^うい^いめ^え面^{こめんだう}倒^{たう}る^ら奴^{やつ}が^がら^ら殺^{ころ}し^して^て
ま^まち^ちの^のひ^ひけ^けあ^あさ^さゆ^ゆあ^あず^ずも^もふ^ふお^おい^いる^る者^{もの}あり^り
世^よいに^にた^たか^かむ^むを^をせ^せぬ^ぬそ^そん^んは^はな^な

せんせん
○先ききうのづき油をくちあくるまを
せん
のそものきあをくちあくるまを
油の今

○千石かし
坊主大子に
釣ひおの
あにを
まある

○先^{せん}生^{せい}も^もあ^あく^く千^{せん}金^ごが^がし^しう^う 林^{りん}を^をあ^あく^くち^ちを^をふ^ふの^のあ^あは^はふ^ふ
 志^しを^を教^{きやう}えん^{えん}と^とせ^せう^うし^しう^うふ^ふ

○チミがしぢみはま何そまけゆびく回何りくまふく我われをころ
いふ先○せんせんを合あをゆきぬましく

○ 先づ夫人お怒りく日予汝を苦めふあゝむと云ふ

新ひふをいふの世果ふむとてめん病と云ふは

心こころ 身み 今いま 油あぶら りり 心こころ を 焚たき 已や ぐ 心こころ けりけり を 氣き 小こ の ぬ 去い

我々も、^{わが} 教へ^{しやう} にも、^お け^が ます^い ゐ^る と、^{せう} 世^う 男^い の^ら ぐ^ら け^つ 結^{くわ} 婚^{こん} する

せう
ちゅう
あり
と
う
う
に
わ
も
や
れ
事
に
め
う
め
う
生
と

[illegible]

あふの侍傳授とて合ふとていふ

○先生坊主を契りて白濁お派しすてあの人

有つて御代おしきく。飢をきく世を治るは攝

のあふとていふてあふとていふていふていふていふ

ていふていふていふていふていふていふていふ

人を恨みくを茶とてあふとていふていふていふ

換を睡衣己あふの夜とてあふとていふていふていふ

いつあふとていふていふていふていふていふていふ

有るや或時牛お向く何とていふていふていふていふ

かゝるていふていふ○牛谷とていふていふていふていふ

何おはあふ○馬とていふていふていふていふていふ

御あふとていふていふていふていふていふていふ

何とていふていふていふていふていふていふていふ

吾人とていふていふていふていふていふていふていふ

吾人の歌とていふていふていふていふていふていふ

日とていふていふていふていふていふていふていふ

日とていふていふていふていふていふていふていふ

ともしもりてあ。あむ新くふりか搦威をぬらん我
獣の大まをぬく其えをいして実白くすく一は此
とも角とて（）半珠の白ぬくすくすく
了すをすくすくすく馬の牛の牛の牛
その天令れ得るあやぐ長久安楽あやぐ一そのま
海まのゆきもはれの中まのてに後を指す
まの其のてにまのてにまのてにまのてに
こまのまのまのまのまのまのまのまのまの

てまのまのまのまのまのまのまのまのまの
くは矢人まのまの（）馬のまのまのまのまの
角のまのまのまのまのまのまのまのまの
角の力あまのまのまのまのまのまのまの
虎のまのまのまのまのまのまのまのまの
なりと男のまのまのまのまのまのまのまの
扱も一まのまのまのまのまのまのまのまの
のまのまのまのまのまのまのまのまのまの



英楽てんじの上

十一

尊をわくきふまを一回ふれん。○まじり
 て。さふまあり。中あふ或のちとよみー中ふ
 鬼角を免えいあく九歳ふあてあ。さふて美
 ち感ふや。今み格せ自借根り出来るも
 束さふみ格せ自れ免えさ。今世時ふ二回世目の
 借根さるる格せ。是計りぬと通塞一。万めと
 ありあ。さふま早ふ。百み格せ目いさ。さふ
 通理るま。あふと安。て亦茂。さふ格ひと

會はたきあり。是を失ふ事を難しとて又其後其の失ふ
 とくを討つは難しなり。利を得るに由りて其の失ふも
 の弱あること甚し。其れを避るゝ事あり。又
 進退の利あり。利を得ることも進むれば弱し。又
 損益の利あり。利を得ることも損するれば弱し。
 今より其の過を去るべし。我今其の過を去るべし。

高く大権の勢をちびむ。屈むおわも己が勢を伸
 んとする。これ。我も重きもけた大権のくちを
 べし。是ふけくもこれ。世あり。吾朋ある一人。格お
 年若くも。今も人におて老く。見ゆる人。或時
 け二人。何處ふく。去方。か。も。一。生。お。身。も。人。に
 何くも。ま。い。は。術。幾。ふ。あ。せ。あ。よ。同。く。い。○。素
 高年。七。十。果。く。と。笑。え。く。素。○。高。も。何。も。れ。て。お。く
 若く。人。く。あ。い。人。も。人。も。中。を。合。い。し。ま。ひ。外。

誰んて。も。め。く。果。も。も。く。と。い。ま。で。と。又。と。一。人。お
 向て。足。下。に。何。果。ぞ。と。尋。ね。る。事。い。○。我。い。高。年。め。十。二
 果。く。と。笑。え。く。○。高。も。何。も。れ。て。お。く
 高。年。七。十。果。く。と。笑。え。く。素。○。高。も。何。も。れ。て。お。く
 若く。人。く。あ。い。人。も。人。も。中。を。合。い。し。ま。ひ。外。

是より通る健ふ見へるも力作より中し省く末なる
 うもそんおき物あるもや又四年二米ふぬあう七
 米よりあつる甚以人として行く末惑るやうな物あれ
 とも能く之へ人としてむく年あうして何れ年ふ
 お急へ健ふく末もききあうまね。又さうして我
 今より体の省略も世間より人目より行く事多き世
 うと七十米の飲食より老年の所弊に足るも肉
 澄みさまで倍根を多く人れ足るも所弊をさまで

[illegible]

けむるを家も安んずく子孫永く安んずく

禁物 ○不實 ○剛欲 ○酒色

○朝寝 ○家内不和合

右五ふのやふも合合するあふくもあふく

の大毒物なり名きてそれあふく

有りふする安んずく

いふふふふふふふふふふふ

賣下先生安んずく

